



犬の慢性腎臓病(CKD)における血中FGF23濃度 高値が予後悪化を示唆した症例

症例プロフィール

基本/疾患情報

トイ・プードル、10歳齢、
避妊雌、6.6kg。

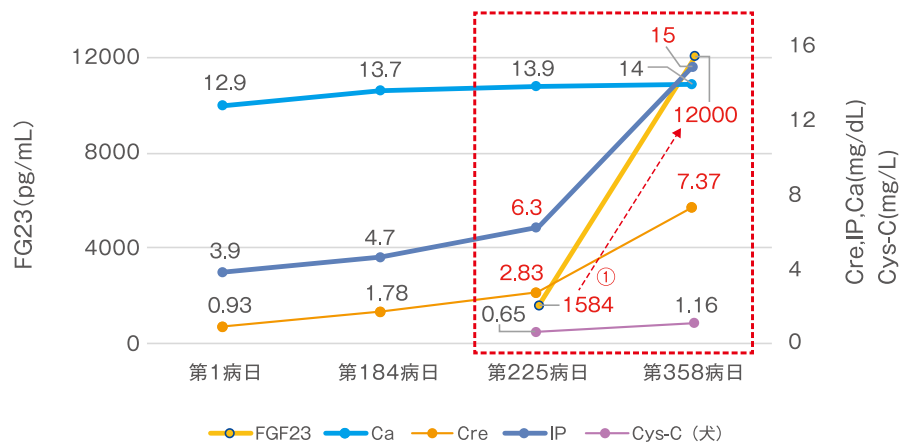
来院目的

定期健康診断にて来院。

診断

第184病日にCKDステージ2と診断。

(図1) FGF23と腎関連項目 血中濃度の推移



治療内容・経過

第184病日

定期健康診断受診のため来院。血液検査の結果よりCKDステージ2と診断したが、臨床症状が無いため食事療法や投薬治療の開始は経過を見てから判断する事とした。

第225病日

経過観察のため来院。腎機能マーカーの数値が上昇し、血中FGF23濃度も高値を示していた(図1-①)。腎臓病用療法食への変更はせずに、サプリメント投与と皮下補液(第229病日より)で経過を見ることとした。

第358病日

経過観察のため来院。腎機能マーカーと血中FGF23濃度がさらに上昇しており(図1赤枠)臨床症状は食欲低下と時々嘔吐があるため制吐剤とビタミン剤を投与した。ご家族様の意向で、腎臓病用療法食への変更による食欲低下を懸念し、通常食を給餌し、投薬も積極的な治療は行わず経過を見ながら対症療法を行った。

考察

本症例は積極的な治療介入を行わなかった理由として、当初よりご家族様の希望によるものでした。

第184病日にCKDステージ2と診断してから、第225病日にはステージ3へと進行した。この時の血中FGF23濃度は1584pg/mLと既に高値を示しており、第358病日にはCKDの進行に伴って血中FGF23濃度も12000pg/mL(上限値)を超えた^{*1}。

第387病日にCKDの悪化により死亡した。

CKDステージ3のタイミングではあったが第225病日の血中FGF23濃度は高値であり、本症例から血中FGF23濃度の高値はその後のCKD進行のリスク因子の可能性のある症例であった^{*1}。

海外論文でも血中FGF23濃度が3000pg/mLを超える場合(猫)では、生存期間の中央値が短いことが報告されている^{*2}。このことより本症例での血中FGF23濃度がCKDの予後悪化と関連していると示唆される。

*1: H Miyakawa, Huai-Hsun Hsu, (2021), Association between serum fibroblast growth factor-23 concentration and development of hyperphosphatemia in normophosphatemic dogs with chronic kidney disease. J Vet Intern Med. 2021; 35: 2296-2305.

*2: Geddes RF, Elliott J, Syme, HM (2015) Relationship between plasma fibroblast growth factor-23 concentration and survival time in cats with chronic kidney disease. J Vet Int Med 29:1494-501.